

■12月19日

スターフライヤー、福岡-関空線運休を発表、福岡-中部線を新設、経営合理化一環

スターフライヤーは18日、福岡-関西線(1日4往復)を来年2月20日から運休し、3月30日から新たに福岡-中部線(1日3往復)を就航すると発表した。業績悪化を受けて策定した経営合理化計画により、収益性を重視した路線の見直しとなる。

新設する中部線は距離が長い名古屋-博多間で新幹線利用客から需要取り込みを狙う。格安航空会社(LCC)との価格競争が関西ほど激しくないことも新規就航の決め手となった。

また、同路線を現在運航し、スターフライヤーの筆頭株主でもある全日空に共同運航を要請する。

運休が決まった関西線は今年10月に就航し、新幹線や格安航空会社(LCC)利用客の取り込みを目指していたが、10月の搭乗率が55%に低迷、需要の積み込みが出来ず、就航から5カ月足らずでの運休となった。

(毎日新聞)12/18

<http://mainichi.jp/select/news/20131219k0000m020060000c.html> (->

<http://mainichi.jp/select/news/20131219k0000m020060000c.html>)

(中日新聞)12/18

<http://www.chunichi.co.jp/s/article/2013121890210818.html> (->

<http://www.chunichi.co.jp/s/article/2013121890210818.html>)

(スターフライヤー プレスリリース)12/18

<http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120131218074049.pdf> (-> <http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120131218074049.pdf>)

吉祥航空(LCC)、那覇-上海線開設、来年1月31日から週4便

尖閣諸島の領有権をめぐる問題で那覇-上海線の2012年9月20日の新規就航を延期していた中国の吉祥航空は18日、来年1月31日から同路線の運航を開始すると発表した。使用機材はエアバスA320(158席)で、週4往復運航(火・木・金・日曜日)する。

琉球新報によると、同沖縄支店の董蔚(とうい)支店長は「沖縄と中国の友好と経済発展のために一刻も早い就航を目指し、関係機関との調整を進めてきた」と説明。今後の目標について「搭乗率80%を目指したい」と述べた。

(沖縄タイムス)12/18

<http://www.okinawatimes.co.jp/article.php?id=59061> (-> <http://www.okinawatimes.co.jp/article.php?id=59061>)

(琉球新報)12/18

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-216808-storytopic-4.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-216808-storytopic-4.html>)

全日空、羽田-ミュンヘン線新設、羽田から欧州主要3路線へ運航

全日空は18日、2014年3月30日からのドイツ路線の概要を発表した。新たに獲得した羽田空港の国際線枠を活用して羽田-ミュンヘン線を週7便で新設。羽田-フランクフルト線も現行週7便から週14便に倍増する。使用機材は、フランクフルト線がボーイング777-300ER型機、ミュンヘン線がボーイング787-8型機。

また、成田-ミュンヘン線の運航区間を変更する形で成田-デュッセルドルフ線も開設。日系企業が多数進出し、在留邦人も多いデュッセルドルフへの需要獲得をはかる。使用機材はボーイング787-8型機。一方、成田-フランクフルト線は運休し、ルフトハンザ航空とのコードシェア便で対応する。

これで全日空は、羽田空港からロンドン・パリ・フランク線といった欧州主要3路線を運航することになる。欧州主要3路線にはファーストクラスも設定する。欧州へは羽田空港をメイン空港に位置付け、成田空港で補完する戦略だ。

欧州線は、アジアからの乗り継ぎ需要が大きい北米路線と異なり、成田空港で国際線乗り継ぎ搭乗者は多くない。一方で、地方在住の日本人は、成田空港ではなく、仁川経由等で欧州へ向かう需要も少なくなかった。今後は羽田空港に欧州主要路線を集約することで、国内線を活用して全国からの需要の取り込みを図っていく。

(日経)12/18

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD180PN_Y3A211C1TJ2000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDD180PN_Y3A211C1TJ2000/)

(日刊航空)12/19

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(トラベルビジョン)12/18

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59991> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59991>)

(ANAプレスリリース)12/18

http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/13-134.html (-> http://www.ana.co.jp/pr/13_1012/13-134.html)

(1)新規開設

路線	便名	出発時刻 (現地時間)	到着時刻 (現地時間)	運航 開始日	機材	備考
羽田—ミュンヘン	NH275	12:35	17:20	3月30日 (毎日運航)	B787-8	
ミュンヘン—羽田	NH276	21:25	15:50+1			
成田—デュッセルドルフ	NH941	11:00	16:00	3月30日 (毎日運航)	B787-8	
デュッセルドルフ—成田	NH942	18:35	13:00+1			

(2)増便

路線	便名	出発時刻 (現地時間)	到着時刻 (現地時間)	運航 開始日	機材	備考
羽田—フランクフルト	NH223	11:25	16:35	3月30日 (毎日運航)	B777-300ER	
フランクフルト—羽田	NH224	20:45	14:55+1			

(3)路線変更・運休

路線	現行	変更後	実施時期	備考
成田—フランクフルト	7往復/週	—	3月30日	※1
成田—ミュンヘン	7往復/週	—	3月30日	※2

※1 ANA が運航する成田—フランクフルトは運休いたしますが、ルフトハンザドイツ航空が運航するコードシェア便は引き続きご利用いただけます。

※2 ANA が運航する成田—ミュンヘンは成田—デュッセルドルフに運航区間を変更いたします。

ルフトハンザドイツ航空、羽田—フランクフルト線、ミュンヘン線開設、ANAとのJV強化

ルフトハンザドイツ航空は18日、2014年3月30日から羽田—フランクフルト線と羽田—ミュンヘン線に就航すると発表した。いずれも1日1便のDAIL運航で、JVを行う全日空の運航便とあわせて、羽田からのドイツ2路線で1日5便が運航されることになる。

(->)

一方、成田路線についてはネットワークを維持する方針で、現在運航中の成田—ミュンヘン線は運休、フランクフルト線は、成田—関空—フランクフルト線として1日1便で運航する計画だ。

(日刊航空)12/19

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

ANAHD、本社オフィスフロア—半分縮小、賃料100億円削減

ANAホールディングスが来年4月、東京・汐留のグループ本社フロアを半分に削ることが17日わかった。羽田空港の旧本社ビルからは退去し、全国の支店でも面積を縮小。2013～15年度に賃料を100億円削減し、破綻処理で身軽になった日航の利益の差を縮める。朝日新聞が報じた。

本社は現在の8フロアを4フロアにし、社員は6割に減らす。2フロアを使う旅行部門を賃料の安いビルに移すほか、社員の机の幅を20～40センチメートル縮めるなどして1フロアあたりの社員を2割増やす。羽田にあるシステム部門は、

大田区と川崎市の自社ビルに移す。

また、本社と管理部門の正社員200人を来年4月までに窓口など空港の現場に配置転換する。路線拡大による現場の人手不足を解消するとともに、契約社員を減らしたり新規採用を絞ったりすることで、100億円の賃料削減とは別に、人件費を年間12億円減らす効果があるという。

すでに子会社の統合や営業拠点の廃止などで500億円超の削減を達成。労働組合と協議中の年金制度見直しなどでも追加の削減を見込む。

(朝日新聞)12/18

<http://digital.asahi.com/articles/ASF0TKY201312170416.html?>

[_requesturl=articles/ASF0TKY201312170416.html&ref=comkiji_txt_end_s_kjid_ASF0TKY201312170416 \(->](http://digital.asahi.com/articles/ASF0TKY201312170416.html&ref=comkiji_txt_end_s_kjid_ASF0TKY201312170416)

<http://digital.asahi.com/articles/ASF0TKY201312170416.html?>

[_requesturl=articles/ASF0TKY201312170416.html&ref=comkiji_txt_end_s_kjid_ASF0TKY201312170416\)](http://digital.asahi.com/articles/ASF0TKY201312170416.html&ref=comkiji_txt_end_s_kjid_ASF0TKY201312170416)

佐賀空港、国際線ターミナルビルオープン

佐賀空港の国際線ターミナルビルが18日、オープンした。午前中、春秋航空(LCC)の上海便が到着し、これまで仮設対応で混雑していた出入国審査もスムーズに進んだ。20日にはティーウェイ航空(LCC)のソウル便も就航。県はさらなる格安航空会社(LCC)の路線誘致を目指す。

国際線ビルは、既存ビルの西側に建設。3階建て、延べ床面積約2400平方メートル。総事業費9億円は、県がビル管理会社に全額支援した。出入国審査場の常設により国内線の発着時刻に関係なく、国際線の受け入れが可能になった。

(佐賀新聞)12/18

[http://www.saga-s.co.jp/news/saga.0.2597914.article.html \(-> http://www.saga-s.co.jp/news/saga.0.2597914.article.html\)](http://www.saga-s.co.jp/news/saga.0.2597914.article.html)